高温にBS資材　効果じわじわ

作物が持つ能力や環境ストレスへの耐性を高めるとされる資材・バイオスティミュラント（ＢＳ）を巡り、国や業界団体の動きや農家の導入が活発になってきた。実際に水稲の高温被害を抑えたり、野菜の根張り向上させたりと、効果を実感する農家もいる。

水稲苗傷み

約1週間で葉色回復

佐賀県白石町の米農家・野中勝さん（50）は昨年、育苗時期の高温による苗傷みを、ＢＳ資材の施用で回復させることに成功した。苗傷みに悩んでいた近隣の農家と協力して確かめた。露地育苗でできる高温対策が限られる中で、頼りになると期待する。

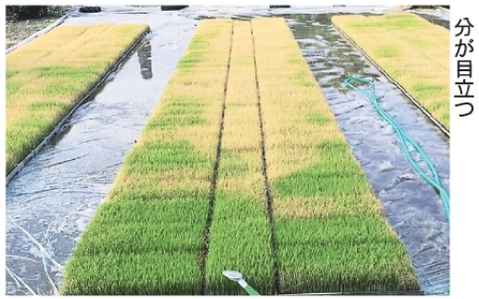
野中さんらが使った資材は、高温耐性向上が見込める「ヒートインパクト」と苗の徒長を防ぐとされる「ファイト・オーツー」の２種類。地元の資材販売店と相談して決めた。

九州で広く行われている露地育苗では、高温で苗が焼けたように退色することがある。実際に退色した苗に、この２種類を10日間で３回ほど施すと、葉色が回復。「散布翌日から少しずつ回復し、３日後にはだいぶ良くなった」（野中さん）。田植えに間に合い、その後の生育も良かった。

「高温対策は画期的な方法がなく、水管理などで対応している中で（ＢＳ資材には）助けられた」と話した。

「ヒートインパクト」は本来は幼穂形成期から出穂期に使い、高温による収量低下や白未熟粒の発生を抑える効果が見込める。野中さんらが得た効果について、資材を販売するファイトクロームの担当者は「しおれていた葉を生き返らせ、新しい葉が出るのをサポートしたのではないか」と分析する。完全に枯れた葉の回復は難しいとみる。

佐賀県白石町・野中さん



6月上旬、ヒートインパクトを施用する直前の水稲の苗。焼けたように退色している部分が目立つ

6月上旬、施用から2日後。苗が緑色に戻りつつある

6月上旬、施用から1週間で葉色が回復した（いずれもファイトクローム提供）

ネギ根張り

太り良く養水分吸収

神奈川県相模原市の鈴木篤史さん（38）はネギの育苗で、ＢＳ資材を含む培土を使うことで根張り向上を実感している。ネギは周年栽培していて、高温下でも安定した生育につながっているとみる。

活用している培土はトキタ種苗の「ガッチリくんスーパーねぎ用」。根を太く長く伸ばして、水分や養分の吸収を助ける効果が見込める。鈴木さんは、従来の培土よりもトレー1枚当たり100円ほどコストはかさんだが、できたネギは太りが良く、費用対効果は十分という。

ネギはくわで株元から掘り起こす。「根張りが良過ぎて引き抜くのに苦労したほどだ」（鈴木さん）という。

農水省は昨年5月、農家が多様なＢＳ製品を安心して使えるようにするためのガイドラインを策定。表示に関しては、根拠となる試験結果を踏まえて効果を示すよう求める。メーカーらでつくる業界団体も、これをより発展させたガイドラインを定めたところもある。

（後藤真唯子、徳安美沙都）

神奈川県相模原市・鈴木さん

BSを含んだ「ガッチリくんスーパーねぎ用」㊨と従来培土の比較（埼玉県加須市で）

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。